

視聴覚障害児の療育の検討 障害児保育に関する保母の意識を中心に

(分担研究：発達の観点から見た療育指導のあり方に関する研究)

福井大学教育学部

松木 健一

要約：障害を持った幼児の多くは、障害に関する専門機関とは別に保育所等に通園するケースが多い。ところが、保育所でその子どもを担当する保母は、必ずしも障害児教育の専門家であるというわけではないため、常に不安を抱きつつ保っているというのが現状であろう。その不安の現状を分析し、特別なことを実施することよりも保母として保ること、つまり、保母としての専門性を再確認してもらうための方法を検討した。

見出し語：障害児保育 統合保育 発達観

研究方法

障害児保育を実施している F 県内の公立 (19 ヲ所)・私立 (5 ヲ所) の保育所の保母

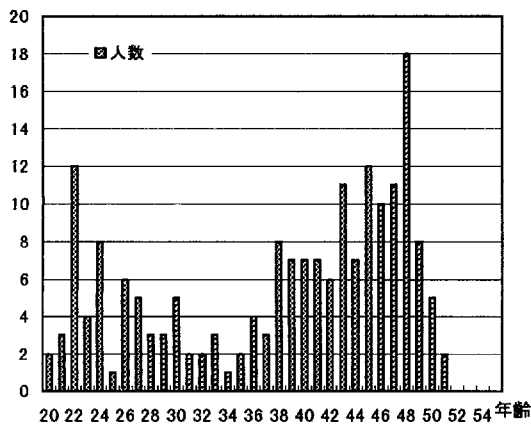


図1 保母の年齢構成

230 名に質問紙調査を 1997 年 10 月から 12 月にかけて実施した。調査内容は、保母に関する事柄 (年齢・保育体制など) のほかに、仕事についての満足度や障害児保育に関する保母の意識である。

結果

200 名の保母から調査用紙を回収できた (69.6%)。この調査で分かったことを以下に報告する。

(保母の年齢構成) F 県の保母の年齢構成を見ると、20 代と 30 代にピークがある。これは、小子化による採用減と、結婚・子育ての頃にいったん退職する保母が多いことによると思われる。

(保母に必要とされる能力) 保母をするにあたって、必要とされる能力は、健康と体力

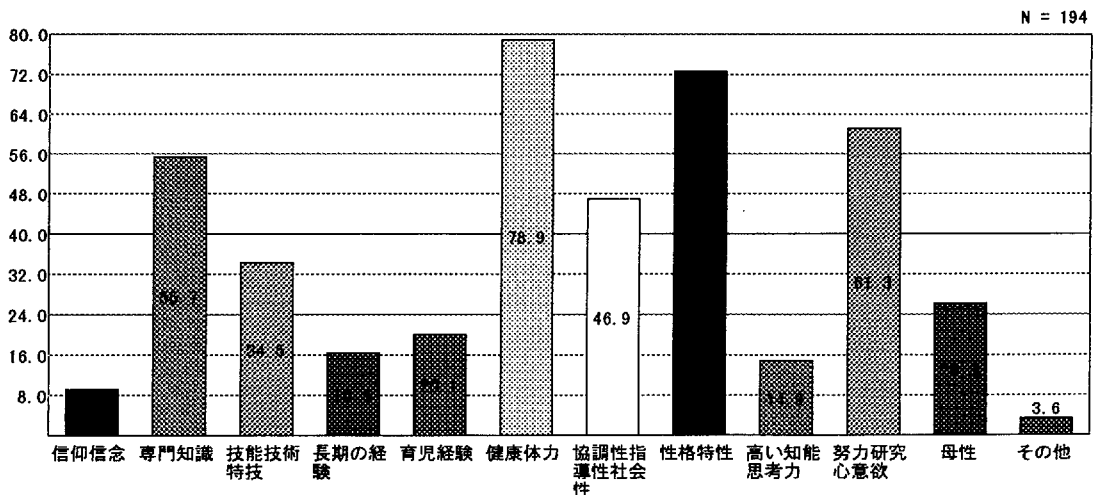


図2 保母に必要とされる能力

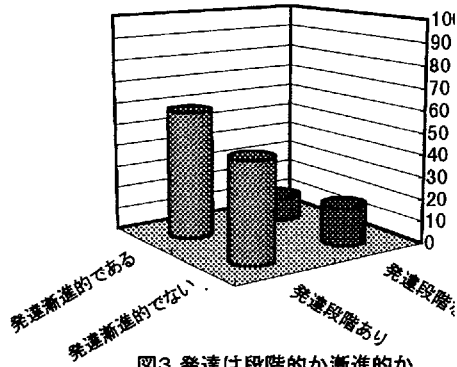


図3 発達は段階的か漸進的か

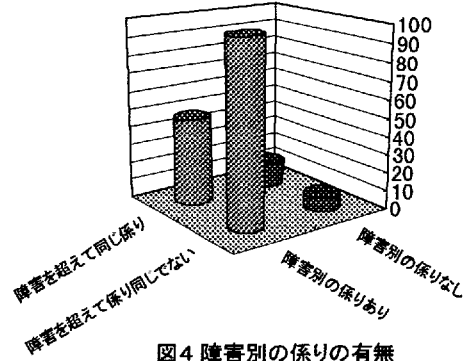


図4 障害別の係りの有無

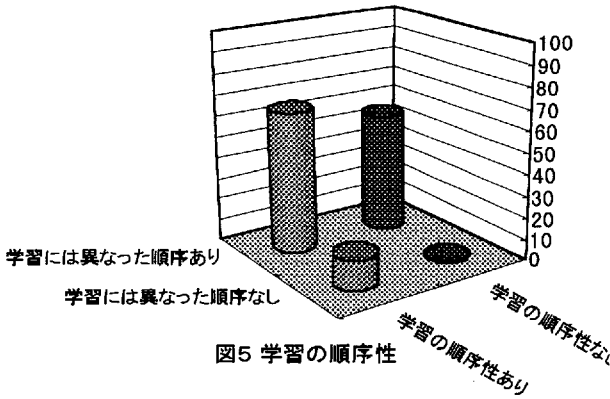


図5 学習の順序性

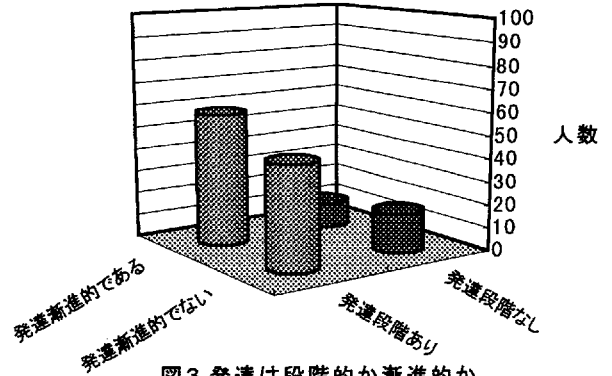


図3 発達は段階的か漸進的か

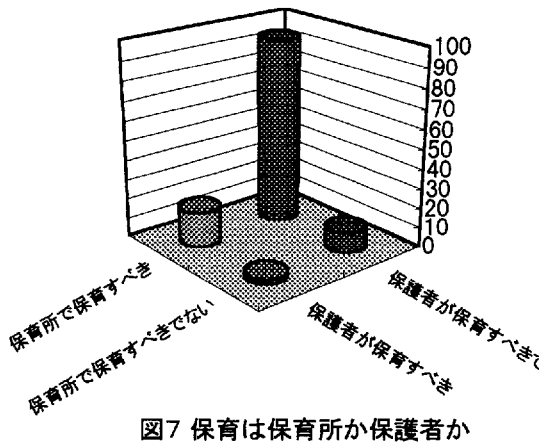


図7 保育は保育所か保護者か

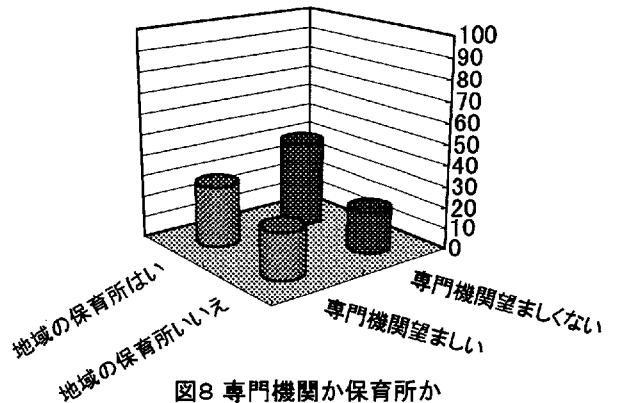


図8 専門機関か保育所か

であると考えている。

(障害児保育についての考え) 調査では一見矛盾する質問(発達は段階的か・発達は漸進的か)が別々に質問されている。これらの質問に矛盾なく回答されている事柄は、「障害児は保護者よりも保育所で保育すべきである」(図7)、「障害の種類に応じた係り方がある」(図4)である。一方、迷っている項目には、「保育は専門機関で行うべきか地域の保育所で行うべきか」(図8)「個別教育か集

団保育か」(図6)がある。また、「学習には順序性があるかいなか」(図5)「発達は段階的か漸進的か」(図3)などには、矛盾した返答が多く、障害児保育について戸惑っている様子がうかがえる。

このような保母に対して、保母として自信を持って係れるような援助システムが必要であろう。障害児の専門機関で子どもを見るだけでなく、保育所での活動を踏まえ、保母としての専門性を尊重しつつ援助できるようなスタッフが必要である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:障害を持った幼児の多くは、障害に関する専門機関とは別に保育所等に通園するケースが多い。ところが、保育所でその子どもを担当する保母は、必ずしも障害児教育の専門家であるというわけではないため、常に不安を抱きつつ係っているというのが現状であろう。その不安の現状を分析し、特別なことを実施することよりも保母として係ること、つまり、保母としての専門性を再確認してもらうための方法を検討した。